

栃木県で過去16年間に分離された牛呼吸器病原菌の 薬剤感受性調査

小池新平^{1)†} 井上恭一²⁾ 米山州二¹⁾ 市川 優¹⁾ 田島和彦³⁾

1) 栃木県県央家畜保健衛生所 (〒321-0905 宇都宮市平出工業団地6-8)

2) 栃木県県南家畜保健衛生所 (〒328-0075 栃木市箱森町22-27)

3) 栃木県農政部 (〒320-8501 宇都宮市塙田1-1-20)

(2008年8月1日受付・2008年11月18日受理)

要 約

1992～2007年に栃木県内で呼吸器病罹患牛から分離された *Mannheimia haemolytica* (M. h) 28株と *Pasteurella multocida* (P. m) 67株の薬剤感受性を調べた。ナリジクス酸 (NA) 耐性 (M. h : 25.0 %, P. m : 9.0 %) とジヒドロストレプトマイシン耐性 (M. h : 21.4 %, P. m : 9.0 %) が、両菌種で認められた。両菌種とも2005年以降に分離された肉用牛由来株で耐性を示す薬剤が増加していた。県内の農場における薬剤使用状況を調査したところ、使用頻度が高い薬剤はフルオロキノロン系とペニシリン系薬剤であった。両菌種におけるNA耐性増加は、農場におけるキノロン系薬剤の使用頻度の高さが耐性率増加に関与していることが示唆された。

——キーワード：薬剤感受性、牛呼吸器病、ナリジクス酸耐性。

----- 日獣会誌 62, 533～537 (2009)

† 連絡責任者：小池新平 (栃木県県央家畜保健衛生所)

〒321-0905 宇都宮市平出工業団地6-8

☎ 028-689-1274 FAX028-689-1279

E-mail : koikes02@pref.tochigi.lg.jp